



↑粘土ををこねて器の形に整えていく生徒たち

## ★ 器 づくりにチャレンジ

川床中で郷土文化に親しむ

川床中学校は7月6日、総合的な学習の時間「もじゃこタイム」で、地域の人材や素材を活用して郷土文化に親しもうと、陶芸教室を開きました。

この教室では、地元で活動する東陶芸クラブ（小川千昭代表）の6人が指導者となって、デザート皿やコーヒーカップ、刺身盛り皿づくりにチャレンジ。手回しロクロを回したり、葉っぱで模様をつけたり、自分の名前を書き込んだり、生徒たちは思い思いの器づくりに挑みました。

大きな皿を完成させた城戸翔平君（1年）は「量の多い料理に使える器をつくりました。簡単だと思っていたけど、意外に難しかった」と話していました。

↓大型の重機で手際よく整備されるあづま海水浴場



## ★ テ キパキと海水浴場を清掃

東建友会がボランティア

砂浜を気持ちよく利用してもらおう。長島町東建友会（福山義弘会長）は7月7日、海開きを控えたあづま海水浴場の清掃ボランティアを実施しました。

あいにくの雨模様となった同日は、早朝から会員35人が海水浴場に集結。ブルドーザーやバックホー、ショベルカーなどの重機を巧みに操り、荒れた砂浜の整地や海辺に打ち上げられた1年分の流木除去やなどにテキパキと取り組み、辺りは見違えるほどきれいになりました。

## ★ 福祉の心を学ぶ

長島中が福祉体験学習

長島中学校は7月6日、7日の2日間、養護老人ホーム長生園で福祉体験学習を実施しました。この体験は、高齢者とのふれあいを通じて、相手の考えや思いを受け入れ、思いやりとは何かを追求し、生徒自身の考え方や行動を発展させるのが目的で行われたものです。

6日は12人、7日は20人の2班に分かれて行われたこの学習。生徒たちは車椅子を押したり、歩行補助についたりして高齢者に付き添い、会話やゲームを楽しみながら1日を過ごし、福祉の心を学びました。



↑高齢者とふれあい、福祉の心を学ぶ生徒たち